

## はじめに



昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風 による被災当時のガラシャ通り（須田晃弘氏寄贈写真）

## 長岡京市と水害

かつてこの地に置かれた都「長岡京」が「平安京」へ遷都されることとなった理由のひとつが、水害だったと言われています。

昭和の初期から中期には、長岡京市が幾度となく水害に見舞われた記録が残されており、昭和 28 年（1953 年）には市内を流れる小畑川が決壊する被害もありました。

写真では、昭和 34 年（1959 年）の伊勢湾台風による被害で浸水した現在のガラシャ通りを、舟で移動する住民の様子が確認できます。

近年、河川の堤防や雨水対策施設の整備が進み、長岡京市では幸いにして大きな水害は発生していませんが、全国各地では、これまで経験したことのない豪雨による被害が毎年のように発生しています。次は、長岡京市で起こるかもしれません。このハザードマップを活用し、いざというときの備えを万全にしましょう。



現在のガラシャ通り

## 目次

はじめに	1・2
避難所一覧表・要配慮者利用施設	3・4
大雨による氾濫	5・6
大雨による土砂災害	7・8
防災情報	9・10
避難行動	11・12
地図 洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域等 索引図	13・14
地図 洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域等 1～5	15～24
地図 河川ごとの洪水浸水想定区域 索引図	25・26
地図 （洪水浸水想定区域）桂川	27
地図 （洪水浸水想定区域）小畑川	28
地図 （洪水浸水想定区域）小泉川	29
地図 （洪水浸水想定区域）犬川	30
地図 （洪水浸水想定区域）善峰川	31
地図 （洪水浸水想定区域）西羽束師川	32
地図 （浸水浸水継続時間）桂川	33・34
地図 （洪水浸水継続時間）小畑川	35
地図 （洪水浸水継続時間）小泉川	36
地図 内水浸水想定区域 索引図	37・38
地図 内水浸水想定区域 1～3	39～44
地図 内水浸水継続時間	45・46
地震災害	47・48
地震ハザードマップ	49・50
地震被害予測	51・52
避難準備	53・54
避難の際に役立つ情報	55・56
自助・近助・共助・公助	57・58
災害情報を入手するには（二次元コード）	59・60
避難行動計画（マイ・タイムライン）	61・62